

1. くやし涙

豊丘村豊丘中学校三年 Y・H

「おばあちやー」

涙が

ほっぺたを

鼻の頭を伝っていく

あの

屋根がこわれそうに雨の降った日

あの時 聞いた有線のアナウンサーの声

服のぬれるのもかまわず

父の所へ知らせに行った

すべてが夢のようだった

うそであってほしい

アナウンサーのまちがいであってほしい

そう 願い続けた 私の目に 耳に

父のことばは 冷たかった。

「死亡 H・I (五十六)」

もうあきらめるよりしかたがない

雲の間から出た月が

さみしそうな おばあちやの 顔に見える

苦しかったでしょうね

こんなことの犠牲に なりたくなかったでしょうに

こうなることが わかっていたら

けっして 死なせるようなことはなかったのに

土砂崩れを防ぐことができていたなら

明るくて元気なおばあちやだったのに

涙が流れる

くやし涙が流れる

(三十六年)